

平成 23 年 5 月 11 日現在

機関番号：22401

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20791643

研究課題名（和文）

特別養護老人ホームの介護職員が利用者に対して行う口腔ケア技術向上に関する研究

研究課題名（英文） Research on oral health care technology improvement that nursing staff at special elderly nursing home does to elderly person

研究代表者

新井 恵（ARAI MEGUMI）

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教

研究者番号：40331350

研究成果の概要（和文）：

統計学的処理を行ったところ、施設長は口腔ケアの重要性を認識しながらも、人員配置などの条件から口腔ケアに時間が割けないことを問題点として挙げていた。

介護職員は、施設の方針や個人の力量により、困難を感じる項目に大きな差があった。施設長と同様、配置されている介護職員の人数の少なさから、時間がかけられないといった問題点が挙げられていた。

以上のような点から特別養護老人ホームにおける介護職員が行う口腔ケアに関する問題点が明らかになり、口腔ケア技術向上に必要な事項が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

The director of facility was recognizing the importance of the oral health care when having processed it in statistics. But it had been enumerated not to be able to spare time from the condition of the staff assignment etc. to the oral health care as a problem. The nursing staff had a big difference in the item that felt the difficulty. The problem that time was not spent from few of the number of people of arranged nursing staff had been enumerated. The problem concerning the oral health care that the nursing staff in the special elderly nursing home did become discernment, and the matter necessary for the oral health care technology improvement was clarified.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,400,000	420,000	1,820,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：歯学・社会系歯学

キーワード：口腔衛生学（・栄養学）

1. 研究開始当初の背景

(1) 高齢者を取り巻く環境

現在日本は高齢社会となり、今後ますます高齢化が進むと予測されている。2000年に、健康寿命の延伸および生活の質の向上を実現することを目的として、健康日本21が発表された。具体的な目標として栄養・食生活、身体活動・運動などとともに歯の健康が上げられている。

また、2000年に導入された介護保険より5年が経ち、2006年4月より介護予防に重点をおいた予防重視型システムへ転換される改正が行われた。新たに導入された新予防給付では介護度にあった介護予防プランとして、口腔機能向上の項目も上げられている。このように、口腔保健の推進は国の健康施策として重要な位置を占めている。

欧米では、既に10年以上前から口腔保健分野におけるオーラルヘルスプロモーション（口腔保健）の重要性が指摘され、多くの実践・研究¹⁾が行われてきた。しかし、日本のオーラルヘルスプロモーションは着手されたばかりである。高齢化がすすんだ現在、高齢者のオーラルヘルスプロモーションは極めて重要な課題である。

(2) 高齢者の健康と口腔ケア

高齢者の口腔内が不潔になると誤嚥性肺炎の原因となり、高齢者の死因の上位である肺炎の原因となることが知られている。高齢者の死因の4位が肺炎であり、肺炎の30%強は、誤嚥性肺炎であると診断されている。誤嚥性肺炎の可能性のある者の割合は、要支援で3.7%、要介護1で6.8%、要介護2で10.2%、要介護3で17.4%、

要介護4で32.0%、要介護5で44.8%であり、要介護度が重度化するに従い増加傾向にある。

要介護高齢者の日常生活における楽しみの第一位は「食事」と報告されている。また、高齢者の口腔機能改善により、ADL等の生活機能が向上することを示した報告もあり、要介護高齢者のQOLを維持するために口腔ケアは重要な役割を果たしている。

(3) 介護老人施設における要介護高齢者の口腔ケアの現状と整備の必要性

介護老人施設入居者を対象に、歯科衛生士による口腔ケアを実践した結果、口腔衛生状態の改善、カンジタ菌の減少、口臭の減少、要介護者の発熱回数の減少があった等、口腔ケアの成果が報告されている。

このように口腔ケアは要介護高齢者のQOLを維持するために重要である。これまで、歯科医師や歯科衛生士が専門的に行う口腔ケアに関する研究や報告は多くあるが、日常的に介護老人施設で介護職員が行う口腔ケアに関する調査・研究はほとんど行われておらず、口腔ケアの現状は明らかでない。

2. 研究の目的

特別養護老人ホームで介護職員が利用者に行っている口腔ケアの現状を把握すると共に、口腔ケアを困難にしている要因を明らかにすることを目的とし、今後の口腔ケアのあり方を検討する。

3. 研究の方法

インターネットサイト WAM NET（独立行政法人福祉医療機構運営）に掲載

されている埼玉県内の特別養護老人ホーム 256 施設の施設長と介護職員 4,000 名に対して本研究の目的や意義等について書面で説明し、無記名自記式質問紙調査票へ回答してもらった。質問紙への回答をもって同意を得たものとした。

調査項目は、施設長に対しては、施設の状況、口腔ケアに対する意識等とした。介護職員に対しては、口腔ケアに関する専門家の指導の有無、口腔ケアに対する意識した。

4. 研究成果

4000 名中 2850 名から回答を得、回収率は 71.6%であった。

各質問項目への回答は以下の通りである。

1) 施設の概要

256 施設中 93 施設から回答を得、回収率は 36.3%であった。

入所者の平均要介護度は 3.91 であった。

2) 口腔ケアの重要性の認識

口腔ケアを実施することは重要であると回答した施設長は 67 名 (72.0%) であった。

3) 歯科衛生士の配置予定

歯科衛生士を常勤で雇用する予定はないと回答したのは、80 名 (86.0%) であった。理由は、雇用するだけの金銭的余裕がないが多かった。

施設長は口腔ケアの重要性を認識しながらも、人員配置などの条件から口腔ケアに時間が割けないことを問題点として挙げていた。

(1) 介護職員の基本属性

男性が 581 名 (20.4%)、女性が 2269 名

(79.6%) であった。

(2) 高齢者介護の経験年数

高齢者介護にかかわった経験年数は、平均で 5.08 年であった。

(3) 勤務形態

92%が常勤で、8%が非常勤であった。

(4) 有している資格 (複数回答)

介護福祉士 439 名 (15.4%)、ホームヘルパー1 級 54 名 (1.9%)、ホームヘルパー2 級 1055 名 (37.0%) であった。資格を有していないものは、231 名 (8.1%) であった。

(5) 口腔ケアに関する技術講習会参加の有無 (図 1)

今までに1度でも技術講習会に参加した経験のある者は 2280 名 (80.0%) で、参加した経験がない者は 570 名 (20.0%) であった。

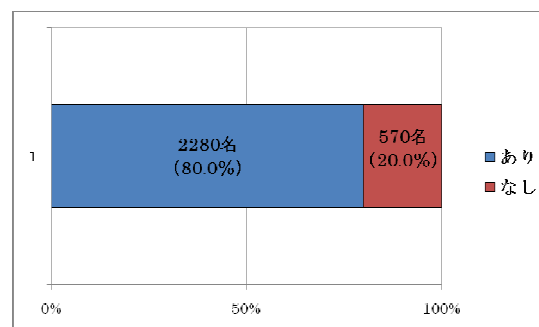


図 1 口腔ケアに関する技術講習会参加の有無

(6) 口腔ケアに関する知識の入手 (複数回答 図 2)

日常的に口腔ケア知識をどのように入手しているかは、講習会へ参加 1012 名 (35.5%)、職員同士の情報交換 1394 名 (48.9%)、学生時代の知識を活用 371 名 (13.0%)、特に何もしていないと回答し

た者は 154 名 (5.4%) であった。

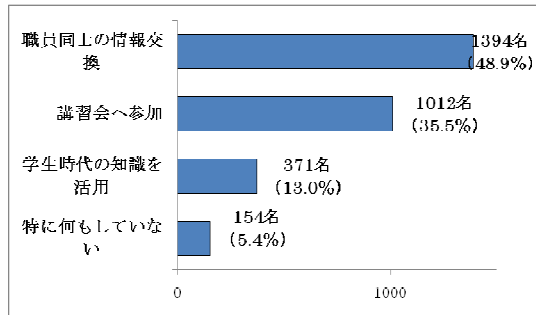


図 2 口腔ケアに関する知識の入手方法

主に職員同士の情報交換で口腔ケアに関する知識を入手しており、新たな知見を得る機会は少なかった。

(7) 他の介助業務と口腔ケア介助の比較 (図 3)

入浴介助や排せつ介助に比べ、口腔ケアを介助することはどのように感じるかの問いに対して、とても簡単 46 名 (1.6%)、やや簡単 94 名 (3.3%)、ふつう 903 名 (31.7%)、やや難しい 1234 名 (43.3%)、とても難しい 573 名 (20.1%) であった。

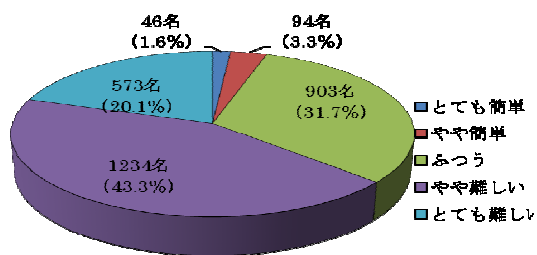


図 3 他の介助業務と口腔ケア介助の比較

とても簡単、やや簡単と回答した理由は、短時間で終わる、身体に危険が少ない、体力が必要ないなどであった。

やや難しい、とても難しいと回答した理由は、認知症で口腔ケアを実施することが理解できない、拒否される、業務の忙しさから一人ひとりの口腔ケアの時間を充分とれないなどがあつた。

入所者の平均要介護度が 3.91 であり、

認知症の方が多いことから、口腔ケアに協力的ではない、拒否されるといった理由で難しいと感じていた。また、食事は一斉に取り、その後口腔ケアを行うと入所者に対して介護職員の手が足りず、1人1人に時間がかけられないため難しいと感じていることが多かった。

(8) 歯科衛生士からのアドバイスの有無

今までに歯科衛生士から口腔ケアに関するアドバイスを受けて役に立った経験のある者は 2322 名 (81.5%)、役に立たなかった、あるいはアドバイスを受けたことのない者は 527 名 (18.5%) であった。

80%以上の者が、口腔ケアの専門家である歯科衛生士からのアドバイスは有効であると感じていた。

(9) 常勤の歯科衛生士は必要か

常勤で歯科衛生士が必要と回答した者は 570 名 (20.0%)、非常勤で必要は 1616 名 (56.7%)、必要ないは 531 名 (18.6%) であった。

理由は、非常勤で必要と回答した理由は、忙しい時間帯だけ来てほしい、必要がない理由は、経費削減をされているので自分たちの給料を上げて欲しい、常勤で必要とした者は、口腔ケアが充実するので必要であるとの回答が多かった。

歯科衛生士の協力は必要であるが、施設全体の雇用状況や給料を考えると常勤では必要でないと考えていた。

また、他のケアと違い、1日中行っているのではないので、食後など忙しい時間帯のみの非常勤でよいとの回答も多かった。

今後の研究の推進方策

本研究結果を基に、歯科衛生士と介護職

員の口腔ケアの連携体制に関する研究を行う必要がある。更に、歯科衛生士と介護職員が利用者に行う口腔ケアの具体的なマニュアルについても検討する予定である

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計3件)

①特別養護老人ホームにおける要介護高齢者の口腔衛生に関する研究

平成20年度埼玉県立大学奨励研究発表会

2009.2

新井恵

②特別養護老人ホームにおける介護職員の口腔ケアの実態と困難感に関する研究

第5回日本歯科衛生学会 2010.9

新井恵、平野美理香、廣田栄子

③特別養護老人ホーム入所高齢者の

口腔衛生と歯科衛生士の関与について

第69回日本公衆衛生学会 2010.10

新井恵、平野美理香、廣田栄子

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新井 恵 (ARAI MEGUMI)

埼玉県立大学・保健医療福祉学部・助教

研究者番号: 40331350